

百人一首の本文は

こうしてできた

— 持統歌・赤人歌を中心に —

参加費 無料

内容

百人一首は、藤原定家(1162~1241)が勅撰八代集を主な資料として、古今の著名な歌人を百人選び、それぞれ一首ずつ抄出して編纂した詞華集です。定家は新古今集撰者の一員として、また和歌の達人として、後世絶大な尊崇を集めましたので、百人一首は聖典視され、数多くの写本が現在まで伝わっています。

ところで、2番持統天皇歌・4番山辺赤人歌を見ますと、それらは、万葉集にある原歌と本文がかなり異なっていることに気づきます。これは、百人一首が万葉集から直接採り入れたのではなく、新古今集に入った両歌を百人一首が採り込んだために起こった現象なのですが、なぜこうした違いが生じたのか、万葉原歌の訓みの難解なこと、新古今撰者たちの万葉歌受容のあり方、この両面から考察し、併せて、万葉集と百人一首との味わいの違いについても明らかにしてゆきたいと思います。

日時

平成26年 **10月25日(土)** 13:00~14:30

会場

聖徳大学10号館 14階

千葉県松戸市松戸1169

JR常磐線・新京成線「松戸駅」下車、東口徒歩1分

定員

80名(事前申込不要)

後援

松戸市教育委員会、市川市教育委員会、
柏市教育委員会、取手市教育委員会

講演者

新藤 協三

(聖徳大学文学部文学科・教授)

専門分野: 平安朝和歌文学

東京教育大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。山形大学・国文学研究資料館・東洋大学を経て、現在、聖徳大学文学部教授・博士(文学)。国文学研究資料館名誉教授。

お問い合わせ ▶▶▶

聖徳大学言語文化研究所(知財戦略課)

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬 550

電話: **047-365-1111** (大代表)

ホームページ: <http://www.seitoku.ac.jp/chizai/>

